



医学部進学を目指すなら

注目の中学・高校特集



ドクターロードのひとつ「川崎医科大学総合医療センター見学」

は、1年次の生徒にはかなりプレッシャーでしょうが、(事前学習も含めて)コミュニケーション能力を高める上で役立つと思いますし、生徒へのアンケートの多くに「患者さんに寄り添う」という言葉が見られることから、将来医師として大切になることがしっかりと伝わっていると感じます。

西松 医科大学2年次を対象に、研究マインドを涵養するため「医学研究の扉」という授業を設けています。基礎・応用・臨床の研究室に1カ月間所属して研究に携わ

るのですが、附属高校出身の学生のパフォーマンスは突出しています。高校時代に研究イメージが明確になっているからでしょう。

大学の学びに直結する「入学前研修」も拡充

沖野 高校3年次の3学期には「医科大学入学前研修」も実施しています。午前は高校で、午後は大学で授業を行う独特な教育内容です。昨年から、解剖学教室の協力を得て「骨学実習」を始めました。本物の人骨を生徒2人に1体分ずついただき、4日間で骨組織の名称を日本語、英語、ラテン語で覚えてもらい、最終日に医学生と同じ口頭試問も行います。ネイティブの先生と英語でコミュニケーションをとる「メディカルイングリッシュ」も実施しており、この2つが今後の「入学前研修」の柱になっていくでしょう。

川上 今後、本校生徒にも、医科大学の学生や先生方にもプラスになるよう、今あるプログラムをブラッシュアップしていきたいと考えています。

卒業生は語る

モチベーション維持に最適な「ドクターロード」

父母ともに川崎医科大学の出身で、父と同じ附属高校を選択した本間好花さん。現在、川崎医科大学附属病院で医師として活躍する本間さんに高校時代を振り返ってもらいました。

父母ともに医師という環境もあって医師志望でしたが、中学3年までは進学先を決めかねていました。しかし、医学部進学率の高さと、父の話などから、最後は自分で判断して附属高校に進学することにしました。

入学前は、全寮制ということもあり、医学部合格のためにガチガチに縛られた生活を送らなければならないのかなと心配していました。もちろん、門限や自習時間が決められているなど寮生活に必要な最低限の規則はありますが、少人数制ということもあり、一人ひとりの個性を尊重してくれるため、比較的気楽に過ごすことができ、入学前とはかなり印象が変わりました。

高校時代ではやはり「ドクターロード」が記憶に残っています。「テーマスタディ」では、当時流行っていた「血液型性格診断」の信憑性をテーマに、アンケートを作って全校生徒に配布し、結果を分析して発表しました。現在の症例発表や学会発表につながるような力がそこ

をついたかと思っています。

また、「医師へのインタビュー」では、スポーツ外傷を専門とする先生にいろいろな話を伺いました。現場のリアルな声をたくさん聞いて、医師になるモチベーションが一段と高まりました。

このほかにも、「MM研修」や「医科大学体験実習」など、医学や医療に触れる機会や、様々な先生の先生のお話を聞ける機会が豊富で、附属高校に入学したからこそ、現在のキャリアがあるのだと確信しています。

早くから医学に接している分、附属生には大きなアドバンテージがあります

川崎医科大学附属病院 医師 本間好花さん



Kawasaki Senior High School Attached to Kawasaki Medical School

川崎医科大学附属高等学校

全国唯一の医科大学附属高校！9年間の高大接続教育で医学部進学率は9割以上

医師育成の高大一貫教育に定評のある川崎医科大学附属高等学校。医学部での学びへの橋渡しを担うプログラム「ドクターロード」について、担当する川崎医科大学と附属高校の教員に語ってもらいました。

大学開学当初から高大接続を視野に

西松 川崎医科大学は、患者さんに寄り添い、世の中に貢献できる「良医」を育てたいとの思いから、1970年の開学と同時に附属高校を設置し、高校3年間と医学部6年間を合わせた9年間の医学一貫教育を行ってきました。その取り組みの一つが、2004年から行っている「ドクターロード」です。

若佐 「ドクターロード」は、総合的な探究の時間を使った高校1・2年次の体系的なカリキュラムとして、本校独自のプログラムで構成されています。その中でも「現代医学教育博物館(MM)研修」「医師へのインタビュー」「メディカルスクール・アワー」「テーマスタ

ディ」「医科大学体験実習」は、医科大学の協力を受けて実施しており、現役の医師や医科大学の先生方に接する機会が豊富に用意されています。一方、高校が主体となり実施しているプログラムとして、「大学附属病院見学(川崎医科大学附属病院、総合医療センター、高齢者医療センター)」「旭川荘研修」「卒業生講話」「ガールズドクターロード」があります。

医学部で学ぶ意欲を高め医学生としての学びに貢献

川上 これらのプログラムは、いろいろな医師の話や聞きながら医師への興味を深めるとともに、少しずつ医学や医療について学び、2年次からは実習を通して医学研究も体験する流れになっています。

若佐 「協力いただく大学の先生方には、「点数をとるために勉強するのはなく、医学部入学後スムーズに学ぶために勉強してほしい」ということをお伝えしています。また、すべてのプログラムでレポート提出が求められますが、大学での学びにも対応できるように、レポートの形式や内容に評価基準を設けています。

沖野 「MM研修」では本物の臓器の標本がたくさんあり、レポートでは必ずイラストを描いてもらいます。こちらが何も指導していないのに先輩たちの見本を参考に良いレポートを書くようとしているのが伝わってきます。これは大学で実習レポートを書く力につながります。また、医師と生徒が1対1で行う「医師へのインタビュー」

学校見学会

日時 11月25日①
10:30~12:30
12月22日②
10:30~12:30

場所 川崎医科大学附属高等学校
(岡山県倉敷市)

内容 ●高校説明
●校舎棟・寮見学
●個別懇談



左から、川崎医科大学附属高等学校教務部長の若佐知善先生、教頭の川上真美先生、川崎医科大学学長補佐(附属高校担当)の西松伸一郎先生、副学長補佐(高大連携担当)の沖野哲也先生。